

Mp(4)のp通常的な尖点的保型表現の個数の有界性について

石倉 麟太郎
東京大学 数理科学研究科

\mathbb{A} を有理数体 \mathbb{Q} のアデール環, $\mathbb{A}^{\infty,p}$ を有限アデール環 \mathbb{A}^{∞} から素点 p を除外した環とする. Mp_{2n} でシンプレクティック群 Sp_{2n} の2重被覆群を表す.

定義: $\mathrm{Mp}_{2n}(\mathbb{A})$ の保型表現

$\mathfrak{g}_{\infty} = \mathfrak{sp}_{2n}(\mathbb{R})$ とおき, $K_{\infty} \cong U_n$ を $\mathrm{Sp}_{2n}(\mathbb{R})$ の最大コンパクト部分群とする. genuine保型形式 $\phi: \mathrm{Sp}_{2n}(\mathbb{Q}) \backslash \mathrm{Mp}_{2n}(\mathbb{A}) \rightarrow \mathbb{C}$ のなす空間 $\mathcal{A}(\mathrm{Mp}_{2n}(\mathbb{A}))$ と尖点形式のなす空間 $\mathcal{A}_0(\mathrm{Mp}_{2n}(\mathbb{A}))$ は $(\mathfrak{g}_{\infty}, K_{\infty}) \times \mathrm{Mp}_{2n}(\mathbb{A}^{\infty})$ 加群である.

- 既約 $(\mathfrak{g}_{\infty}, K_{\infty}) \times \mathrm{Mp}_{2n}(\mathbb{A}^{\infty})$ 加群 π が $\mathcal{A}(\mathrm{Mp}_{2n}(\mathbb{A}))$ の部分商と同型なとき, π は保型表現であるという.
- 既約 $(\mathfrak{g}_{\infty}, K_{\infty}) \times \mathrm{Mp}_{2n}(\mathbb{A}^{\infty})$ 加群 π が $\mathcal{A}_0(\mathrm{Mp}_{2n}(\mathbb{A}))$ の部分商と同型なとき, π は尖点的保型表現であるという.

$\mathrm{Mp}_{2n}(\mathbb{A})$ の尖点的保型表現 π は制限テンソル積分解

$$\pi = \pi_{\infty} \otimes \bigotimes_{l:\text{prime}} \pi_l.$$

をもつ. ここで π_{∞} は既約許容 $(\mathfrak{g}_{\infty}, K_{\infty})$ 加群, π_l は $\mathrm{Mp}_{2n}(\mathbb{Q}_l)$ の既約スムーズ表現である.

定義: 離散的Aパラメータ

$\mathrm{Mp}_4(\mathbb{A})$ の離散的Aパラメータとは, 表現の形式的和

$$\phi = \bigoplus_i \phi_i \boxtimes S_{d_i} \quad \left(\sum_i n_i d_i = 4 \right)$$

であって, 次の条件をみたすもの.

- ϕ_i は $\mathrm{GL}_{n_i}(\mathbb{A})$ の尖点的保型表現(+いくつかの条件).
- S_{d_i} は $\mathrm{SL}_2(\mathbb{C})$ の d_i 次元既約表現.

Aパラメータ ϕ が緩増加であるとは, すべての i に対して $d_i = 1$ をみたすこと.

Aパラメータ ϕ の局所化 $\phi_l = \bigoplus_i \phi_{i,l} \boxtimes S_{d_i}$ は局所Aパラメータ $\phi_l: L_{\mathbb{Q}_l} \times \mathrm{SL}_2(\mathbb{C}) \rightarrow \mathrm{Sp}_4(\mathbb{C})$ を定め,

$$\varphi_{\phi_l}(w) = \phi_l(w, \begin{pmatrix} |w|_p^{\frac{1}{2}} & \\ & |w|_p^{-\frac{1}{2}} \end{pmatrix})$$

によりLパラメータ $\varphi_{\phi_l}: L_{\mathbb{Q}_l} \rightarrow \mathrm{Sp}_4(\mathbb{C})$ を与える.

上三角Borel部分群 $B \subset \mathrm{Sp}_4$ と正整数 $r \in \mathbb{Z}_{>0}$ に対して

$$B(p^r) = \{g \in \mathrm{Sp}_4(\mathbb{Z}_p) \mid g \bmod p^r \in B(\mathbb{Z}/p^r\mathbb{Z})\}$$

とおき, $B(p^r)$ の $\mathrm{Sp}_4(\mathbb{Z}_p) \rightarrow \mathrm{Mp}_4(\mathbb{Q}_p)$ による像を $\tilde{B}(p^r)$ とする.

半整数 a に対して $W_{\mathbb{C}} = \mathbb{C}^{\times}$ の指標 $z \mapsto (z/\bar{z})^a$ を $W_{\mathbb{R}}$ に誘導した2次元既約表現を D_a と表す.

定義: Hecke作用素

$j \geq 0$ と $k > 3$ を整数とする. $\mathrm{Mp}_4(\mathbb{A})$ の尖点的保型表現 π の無限素点でのLパラメータが $\mathcal{D}_{k+j-\frac{3}{2}} \oplus \mathcal{D}_{k-\frac{5}{2}}$ であるとする. $r \in \mathbb{Z}_{>0}$ に対してHecke作用素

$$\begin{aligned} \tilde{U}_r^{(1)} &= p^{k+j-\frac{5}{2}} \times \left(\tilde{B}(p^r) \mathrm{diag}(p, 1, 1, p^{-1}) \tilde{B}(p^r) \text{の作用素} \right), \\ \tilde{U}_r^{(2)} &= p^{2k+j-7} \times \left(\tilde{B}(p^r) \mathrm{diag}(p, p, p^{-1}, p^{-1}) \tilde{B}(p^r) \text{の作用素} \right) \end{aligned}$$

を定め, その帰納極限を

$$\tilde{U}^{(1)} = \varinjlim_{r \in \mathbb{Z}_{>0}} \tilde{U}_r^{(1)}, \quad \tilde{U}^{(2)} = \varinjlim_{r \in \mathbb{Z}_{>0}} \tilde{U}_r^{(2)}$$

とおく. $\tilde{U}^{(1)}$ と $\tilde{U}^{(2)}$ は $\pi_p^{B(\mathbb{Z}_p)}$ に作用する.

定義: p通常的な保型表現

上述の尖点的保型表現 π がp通常的な保型表現であるとは, 次の3条件をみたすベクトル $v \in \pi_p^{B(\mathbb{Z}_p)}$ が存在すること.

- v は $\tilde{U}^{(1)}, \tilde{U}^{(2)}$ の固有ベクトル.
- 極限 $\lim_{m \rightarrow \infty} (\tilde{U}^{(1)})^{m!} v$ と $\lim_{m \rightarrow \infty} (\tilde{U}^{(2)})^{m!} v$ が収束する.
- $\lim_{m \rightarrow \infty} (\tilde{U}^{(1)} \tilde{U}^{(2)})^{m!} v \neq 0$.

定義: 集合 $\mathcal{S}_{\mathrm{temp}}(\mathrm{Mp}_4; K, j, k)$

コンパクト開部分群 $K \subset \mathrm{Mp}_4(\mathbb{A}^{\infty,p})$ と整数 $j \geq 0$ と $k > 3$ に対し, $\mathrm{Mp}_4(\mathbb{A})$ のp通常的な尖点的保型表現で, 以下の3条件をみたすものの集合を $\mathcal{S}_{\mathrm{temp}}(\mathrm{Mp}_4; K, j, k)$ と表す.

- 無限素点成分はLパラメータが $\mathcal{D}_{k+j-\frac{3}{2}} \oplus \mathcal{D}_{k-\frac{5}{2}}$ の正則離散系列表現である.
- 0でないK固定ベクトルを持つ.
- Aパラメータは緩増加である.

整数 $j \geq 0$ と $k > 3$ を動かしたときの, 集合 $\mathcal{S}_{\mathrm{temp}}(\mathrm{Mp}_4; K, j, k)$ の濃度の有界性を得た.

主定理

素数 $p \geq 5$ と, $2, 3, 5, 7, 11, 13, p$ と互いに素な正整数 N を固定する. また, $\mathrm{Mp}_4(\mathbb{A}^{\infty,p})$ のコンパクト開部分群 $K = \prod_{l \neq p, \text{prime}} K_l$ が素数 $l \nmid N$ に対して $K_l = \mathrm{Sp}_4(\mathbb{Z}_l)$ をみたすとする. このとき, 定数 $C(K) > 0$ が存在して, 任意の整数 $j \geq 0$ と $k > 3$ に対して不等式

$$\#\mathcal{S}_{\mathrm{temp}}(\mathrm{Mp}_4; K, j, k) < C(K)$$

が成り立つ.

$\mathrm{Mp}_4(\mathbb{A})$ の緩増加Aパラメータは次の2種類に分類される.

- 吉田型: $\sigma \boxtimes 1 \oplus \sigma' \boxtimes 1$ (σ, σ' は相異なる $\mathrm{GL}_2(\mathbb{A})$ の尖点的保型表現).
- 一般型: $\tau \boxtimes 1$ (τ は $\mathrm{GL}_4(\mathbb{A})$ の尖点的保型表現).

$\mathrm{GL}_2(\mathbb{A}), \mathrm{SO}_5(\mathbb{A})$ では同様の有限性が知られている. 吉田型Aパラメータは σ, σ' に対応させることで $\mathrm{GL}_2(\mathbb{A})$ における有限性に帰着する. 一般型Aパラメータは $\mathrm{SO}_5(\mathbb{A})$ のAパラメータとみることによって $\mathrm{SO}_5(\mathbb{A})$ における有限性に帰着する.

l | N成分 $\mathcal{S}_{\mathrm{temp}}(\mathrm{Mp}_4; K, j, k)$ の元のl成分は K_l 固定ベクトルをもつため, 一様に深さが抑えられる. 局所Langlands対応と局所テータ対応の深さ保存を用いて, 対応する $\mathrm{GL}_2(\mathbb{Q}_l)$ や $\mathrm{SO}_5(\mathbb{Q}_l)$ の既約スムーズ表現の深さを一様に抑える.

l = p成分 $\pi \in \mathcal{S}_{\mathrm{temp}}(\mathrm{Mp}_4; K, j, k)$ のp成分 π_p へのHecke作用を考えると, Borel部分群に関するJacquet加群が $R_B(\pi_p) \neq 0$ をみたすとわかる. よって, π_p はBorel部分群に関する放物型誘導表現の既約商に同型である. Hecke固有値を具体的に計算することで, 超尖点台に関する条件を与える. $\mathrm{GL}_2(\mathbb{Q}_p)$ や $\mathrm{SO}_5(\mathbb{Q}_p)$ の既約スムーズ表現でも同様の考察を行う.

今後の課題

- Nの素因数に関する条件を緩める.
- 2次ベクトル値Siegelモジュラー形式と関連付ける.
- Mp_6 など, 高次のメタプレクティック群で同様の議論.
- 例外群の局所テータ対応の深さ保存の証明と応用.